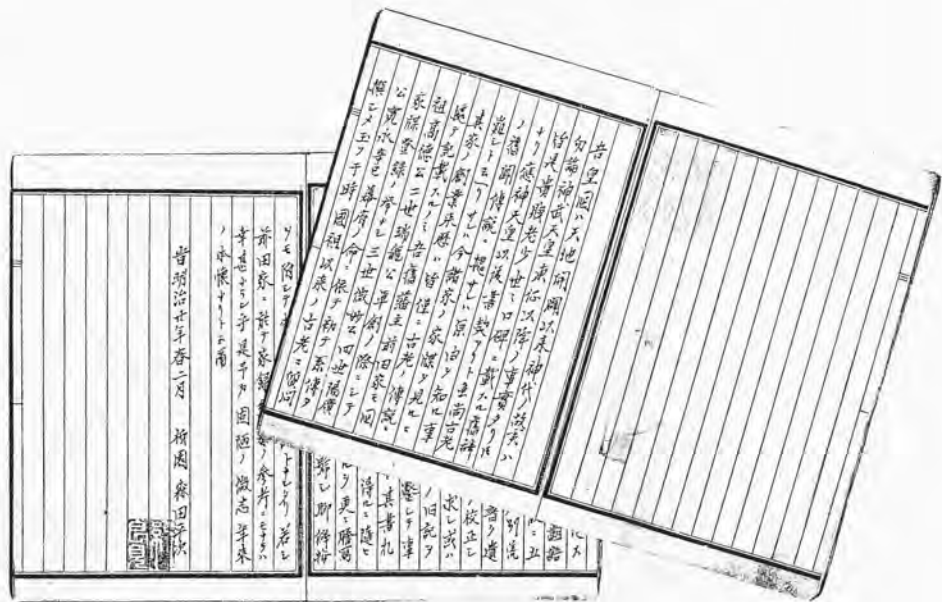
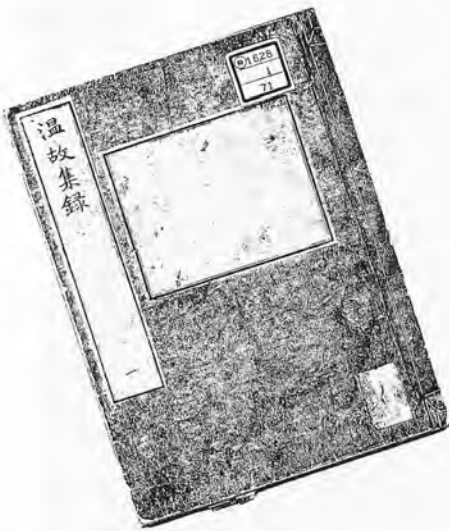


平成 14 年度  
近世史料館冬季展

# 森田柿園と「温故集録」

期間：平成 15 年 2 月 15 日（土）～3 月 28 日（金）  
場所：金沢市立玉川図書館 近世史料館 展示室



『温故集録』

金沢市立玉川図書館近世史料館

はじめに

金沢市立玉川図書館近世史料館では、平成7年度より「金沢市立図書館叢書」として、所蔵史料の刊行を行ってまいりました。本年度は、叢書の第四巻目として『温故集録』の刊行を予定しております。

今展示では、この刊行を期して、編著者である森田平次の事蹟と、『温故集録』を中心とした数多くの編著作物を紹介いたします。

### 森田柿園と温故集録

森田柿園（1823～1908）は、幼名を鉄吉、のち平之佑、平次と称し、諱は常孝・良見と順次改め、号を柿園と称した。嘉永元年（1848）26才の頃より著作が見られ、嘉永4年（1851）29才の時に主家である茨木家の家譜編纂にあたるようになる。以降、彼の歴史家としての活躍は明治時代になってからピークを迎え、前田家御家録編輯方にも属することとなる。

歴史研究とは別に、明治5年（1872）石川県社寺係となり、越前足羽県と石川県の県境問題を担当し、現在の福井県との県境がこの時に定められている。また、同7年（1874）には白山山上の仏像下山の任にも当たり、これらの任務においても名が知られる。

明治10年（1877）、石川県職員を辞したあと、その執筆活動は目覚ましいものとなり、60代・70代には多くの著述を残し、「温故集録」もこの期に成されたもので、柿園65才の時のものである。その活動は82才にまで至っている。明治41年（1908）86才をもって没するが、その生涯の編著作は郷土の歴史を研究する上で欠かせないものとなっている。

「温故集録」は、五代前田綱紀が諸事について調査した時の史料を中心に編纂したもので、藩主前田家の系譜、利家以来の判印書、金沢城以下の藩施設の来由、三州の寺社来歴、藩士履歴等々前田家・加賀藩に関する諸般の事項を網羅している。森田はこれらの事項に関して根拠となる史料を列記し、それぞれ解説と考察を付している。

史料集としては、二次、三次的なものとなるが、本書も含め彼の編著作によって、現在各々の史料を、尋ねる労なくして一覽、一見することができると共に、多くの情報を現在に伝えてくれている。

国事雑抄

16. 28-77

森田柿園編。嘉永6年(1853)から元治2年(1865)間の加賀藩関係の帳簿より、慶長20年(1615)より天明5年(1785)までの法令、その他の文書を抄出したもの。

薫墨集

16. 17-6

慶応2年(1866)森田柿園編。天正から明暦に至る前田利家、利長、利常、光高に関する文書記録を集録。

加越能古文書写

16. 28-101

明治3年(1870)森田柿園校閲。署名は御家録方とあり、御家録編輯事業として領内の古文書を調査した際のもので、藩初の古文書写本。

加藩国初遺文

16. 28-74

明治21年(1888)森田柿園編。天正3年(1575)以来、寛文元年(1661)までの前田家3代に関する古文書類を収録し、柿園の注記を附す。

松雲公採集遺編類纂

16. 03-1

森田柿園編。別名「松雲公遺編古文類纂」。五代藩主前田綱紀(松雲公)は、古人の著書や多くの資料を採集し秘笈叢書と称したが、明治初年その多くが散逸し、遺されたものを柿園が朝廷・神社・寺院・地理・記録・書籍・古文書・碑文・系譜・軍事・教訓・衛生・楽譜・詞花・詩歌・雑の16に類別した。

続漸得雑記

16. 05-6

明治年間、前田家編輯方手写。柿園の父・森田良郷(寛政2~安政4)が、祖盛昌の漸得雑記に倣って、文政から安政4年(1857)迄に採録したもの。渉獵した群書の抜粋・聞書を集めた。明治21年(1888)までの記事がある第31巻以下は、柿園が増補したものである。

温故集録

16. 28-71

明治 20 年 (1887) 森田柿園編。五代藩主綱紀が、前田氏系伝を尋ねるために古老に下問し集めた書札遺事記録を類聚したもの。

白山衆徒牒状録

16. 61-269

嘉永元年 (1848) 森田柿園手写。小倉屋太右衛門旧蔵。白山宮諸坊で莊嚴講執行の際に衆徒を招集した牒状の写で、康永 3 年 (1344) 9 月 12 日～文和 3 年 (1354) 12 月 24 日勸進の 46 通。白山宮莊嚴講中記録の料紙の紙背に用いられていたのを柿園が解冊、書写したもの。

高德公遺誠鈔

16. 17-18

明治 25 年 (1892) 森田柿園著。利家の遺言状、別名「垂相公遺誠」に注釈を加えたもの。

金沢学校創立記

16. 57-15

嘉永 7 年 (1854) 森田柿園著。寛政 4 年 (1792) 金沢文武両学校御創立之事、同諸事作法之事、同入塾之事、同稽古日割之事、天保 7 年 (1836) 両学校仕法替被仰付事、同明倫堂御規制、備考江戸学問所規制などを記す。

金沢長寿録

16. 66-31

万延元年 (1860) 森田柿園著。藩初以来の藩内長寿者を取りあげ、その経歴を記す。

府下長寿録

16. 66-30

森田柿園著。明治年間、前田家編輯方手写。原本は万延元年 (1860) 成立。寛文 10 年 (1670) 以降の長寿者に関する法令、諸達書などを集めたもの。

家のおきて

090 - 1046 - 7

安政4年(1857)6月5日記。元禄時代に森田家四世盛昌が定め、代々に引き継がれたもので、第一 大酒暴食なすべからず、第二 たまさかに二・三献こそ薬なり、第三 粗食・節約第一なり、第四 人の金銀を借りるべからず、第五 我が金銀を貸すべからず、第六 買かかりはなすべからず、第七 何事もつつまやかにぞ暮らすべし の七ヶ条からなる。「文武両道・質素節儉」を家風としたものである。

文末に追加として、「貯金金ハ必ず郵便局へ振込置へし」と、近代になってからの柿園の代の家訓が記されている。

森田家祖正伝

090 - 1046 - 2

森田家の祖となる三郎左衛門良明の事蹟を如来寺住職知一上人が安政6年(1859)に編纂したものの写。

森田歴代産土地記

090 - 1046 - 3

家祖三郎左衛門良明以来、森田家歴代の産土地について記したもの。

※ 巻数の多いものに関しては、一部のみ展示いたします



石川県立図書館「森田文庫目録」より

利常卿御夜話 16. 12-72

森田柿園編。明治年間、前田家編輯方手写。前田利常の談話を記したものの。

考拠摘録 16. 28-9

森田柿園編。天文7年(1538)から万治3年(1660)10月までの加賀藩関係の諸事項をかかげ、そのよるところの書籍と関係内容を抜粋したもの。

佐那武神社古文類聚 16. 61-149

森田柿園編。明治年間、前田家編輯方手写。大野湊神社に蔵する古文書・記録類を編纂したもの。安政3年(1856)狩野前枝による序文の写が第1冊に付されている。

三州志 鞆囊余考々証目録 16. 84-10

森田柿園編。「越登賀三州志」を読む人の便をはかって、編まれた目録。「越登賀三州志」著者・富田景周の著書目録を合わせて収載している。

前田家判印鑑 16. 11-140

嘉永7年(1854)森田柿園編。森田柿園旧蔵。利家、芳春院、利長、玉泉院、利常、光高、綱紀、利政、利次、利治の判印を収録。

森田家代々居住居宅之図 090 - 1046 - 4

森田家が江戸より金沢に来て居住した家屋の変遷が、間取り図として示されている。その変遷は、嶋田町、柿木畠宅となり、柿木畠宅については天明8年(1788)の造替による変化、天保5・6年(1834~1835)頃の様子、さらに明治18年(1885)造営以後の図が附されている。

# 「加能越書籍一覽」に見る編著作

- 地 志 . . . 加賀志徴  
能登志徴  
越中志徴
- 社 記 . . . 白山記攻證  
白山神社考  
白山旧社員考  
大夫坊覚明考  
石浦郷社来歴考  
石浦三輪神社縁起  
金澤神社来歴  
佐那武古文書類従  
尾山神社来歴考
- 系 譜 . . . 加藩國老叙爵考
- 規 則 . . . 加藩貨幣録
- 教 訓 . . . 改題 藩祖遺誠鈔  
改題 金澤長壽録  
扶栞長壽録
- 雜 書 . . . 温古雜帖  
温故遺文  
続汲古北徴録  
温故古文抄  
薫墨集  
加藩國初遺文  
加能越古文叢  
温故集録  
松雲公遺稿古文類纂
- 歌 書 . . . 越中万葉遺事

## 森田柿園 年譜

年 代	年 齢	略 歴
文政6 (1823)	1 歳	2月15日 誕生。幼名鉄吉。
弘化3 (1846)	24 歳	平之丞を平之佑と改める。 茨木家の旧記取調を命ぜられる。
嘉永4 (1851)	29 歳	1月 御用人本役并御歩組足軽組支配。 12月 茨木家の家譜選定を命ぜられる。
安政4 (1857)	35 歳	5月15日 父大作良郷没、家督を継ぎ、遺知60石を賜る。
明治元 (1868)	46 歳	10月 加賀藩寺社所出勤の命を受ける。 御雇料年金20両。
明治2 (1869)	47 歳	10月25日 平次と改名。 11月23日 前田家家録編輯係となる。
明治4 (1871)	49 歳	広坂・金谷両邸、旧城内の蔵書取調主附を命ぜられる。
明治5 (1872)	50 歳	正月23日 金沢県庁より、年来の三州の事蹟搜索・編集著述を賞される。 2月29日 蔵書取調終了につき金沢県庁を辞職。前田家蔵書を借用し自宅にて前田家家録編集にあたる。 4月18日 家録編集を辞退し前田家蔵書を返却。 7月18日 足羽県と石川県との間で白山麓18村の所屬をめぐる問題があり、大属草薙尚志とともに境界実地検査の出張を命ぜられ、平次の歴史考証により白山麓18村は明治11年より石川県の管轄となる。
明治9 (1876)	54 歳	職制改革により社寺係廃止。平次も辞職する。
明治20 (1887)	65 歳	「温故集録」を著す。
明治31 (1898)	76 歳	前田家の要望により書籍編纂を終了とする。
明治37 (1904)	82 歳	12月6日 隠居、家督を外与吉に譲る。
明治41 (1908)	86 歳	12月1日 死去。法号 柿園齋平次良見居士。